外国語学部

Faculty of Foreign Studies

P.096　英語学科
P.098　ドイツ語学科
P.100　フランス語学科
P.102　イスパニア語学科
P.104　ロシア語学科
P.106　ポルトガル語学科

YouTubeで観る学びのリアル
Learning at Sophia
外国語学部編

FACULTY OF FOREIGN STUDIES
Learning at Sophia

上智で身につける3言語3視座

#Sophian
外国語学部で学ぶ上智生

国際社会について知識を深めたい。海外の生活や文化に興味がある。将来、国際協力に関わりたいという想いから。外国語学部で学ぶ学生は、言語だけでなく、さまざまな関心や知的好奇心を学びのきっかけとしています。自分自身の「好き」を起点とすれば、日々の学びはより豊かで楽しいものとなるでしょう。

#Three Languages
専攻語・英語・母語を駆使して世界を読み解く

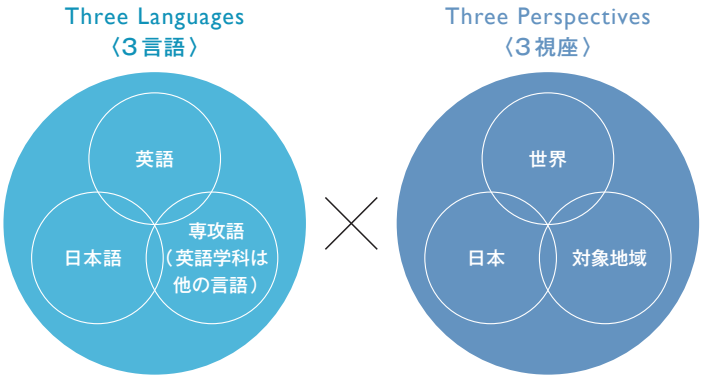
まずは母語で自らの考えや気持ちをしっかりと表現できることが大切。そのうえで「英語＋専攻語」の2言語を学ぶことで、言語運用能力だけでなく、各言語の背景にある、歴史や思想に基づいた多角的な視点を身につけます。現場でのコミュニケーションの積み重ねを重視する点も、学部の学びの特徴です。

#Three Perspectives
地域と日本と世界をつなぐ3つの視座

異文化に身を置くときに、まず自分の文化に根差したモノサシを持つこと、そのうえで異文化間の考え方の違いを知ること、そしてグローバルな視点から、それらの相違を理解すること。この3つの視座を培うことが、世界を理解し、真の意味でのコミュニケーションを実現することにつながるのです。

#Sophia Foreign Studies
上智大学外国語学部で学ぶということ

外国語学部が目指すものは、単に外国語を流暢に話せるスキルの獲得ではありません。国や地域で使われている言語の裏側にある歴史や文化などを広く理解しようと努める姿勢こそが大切です。地域ごとのローカルな事情を理解したうえで、グローバルに行動できる人へと成長する。それが外国学部での学びです。



地球的視野で考え行動する人に

［異文化の理解・自分の文化の理解］
［他者との協調］
［変化に対応・変化を創造］

外国語学部の特徴

「3言語3視座」を通じて世界規模で人を、地域をつないでいく人を育てる

言葉、そしてその言語圏にある国々の歴史や文化背景を学ぶ

実践的なトレーニングによって体得する高度な外国語運用能力を駆使して、新たな「知」を切り拓きます。単に「言語を学ぶ」だけではなく、「言語を通じて学ぶ」ことを重視し、言語圏の歴史・文化・社会・経済・政治などを多面的に研究しながら、地球規模で考える力を育みます。

地域研究を通して立体的な視野を育む「研究コース」

3年次に、9つの「研究コース」から1つを選択し、自分が関心のある領域について専門的な研究を進めていきます。

詳細 ▶P.094

研究コースで自分の専門を究める

体系的な専門研究を通して、課題発見力、問題解決力を養い、世界諸地域への深い理解と複眼的な思考力を獲得します

外国語学部の学生は、9 つの「研究コース」から 1 つを選択・登録し、「第二主専攻」または「副専攻」として修得します。「第二主専攻」では、開設科目群を履修していくことにより、ある地域や学問分野についての系統的な学習と研究を行うもので、卒業論文の執筆が課せられます。「副専攻」では、多様な関心に基づく履修計画に合わせて科目を履修することができます。

導入 → コア → 演習

外国語学部が開講する「コース共通導入科目」と各研究コースが開講する「導入科目」があります。このステージでは、言語学や歴史学、政治学、社会学など学問分野の方法論、調査の仕方、論文の書き方など研究上の技法、世界諸地域に関する幅広い基礎知識などを、主に1～2年次に身につけます。

「導入」ステージで培った方法論や基礎知識を土台に、「コア」では各研究コースが用意する専門性のより高い科目を履修していきます。多様な学びを通じて知識を深め、自分の問題関心をさまざまな角度から捉える複眼的な視点を養います。主に2～4年次で履修します。

自分の研究テーマを追究し、学んだことを自分のことばで表現するステージです。文献を通じて学んだこと、調査したことを発表し合い、切磋琢磨する場です。専門研究の経験豊かな担当教員が“伴走者”としてサポートします。「卒業論文・卒業研究」という一つの作品をつくり上げる喜びを味わってください。

導入、コア、演習に記載している科目名は一例です。
※■色の研究コースは主に総合グローバル学部の開講科目によって構成されています。 総合グローバル学部開講の演習科目には定員制が設けられています。
＊西、西米、ラ米とはそれぞれ、スペイン、イスパノアメリカ（イスパニア語を公用語とするアメリカ諸国）、ラテンアメリカの略称です。

Course-01

北米研究コース

アメリカ合衆国とカナダを対象地域とし、歴史学、心理学、政治学、経済学、社会学などさまざまな学問分野から研究を行います。北米と関係が深いメキシコ、アジア・太平洋地域の科目も用意し、一つの学問分野や国にはとらわれない「総合的な知性構築」を目指します。

導入
- 北米地域研究入門A
- 北米地域研究入門B

コア
- アメリカ政治外交
- Topics in American History
- American Women's History
- History of Japanese Immigration

演習
- North American History
- North American Studies
- Globalization and Migration

Course-02

ヨーロッパ研究コース

多様な民族、言語、宗教、文化を内包するヨーロッパ。本コースではそのヨーロッパ全体や域内の特定の国、サブリージョンにおけるさまざまな事象、さらにはEUに関する問題を、国家や国境といった枠組みにとらわれない俯瞰的視点から深く掘り下げて学び、研究していきます。

導入
- ヨーロッパ史概論
- ヨーロッパの言語と宗教
- ヨーロッパの芸術と文化
- ヨーロッパ政治経済入門

コア
- European Cinema
- ヨーロッパの社会と言語
- EUと欧州安全保障
- 中世ヨーロッパ研究

演習
- イギリス文化・文学研究
- 日本とヨーロッパの政治
- 日仏社会研究
- 西美術＊

Course-03

ラテンアメリカ研究コース

ラテンアメリカは世界でも類を見ない多様性を誇る地域です。先住民固有の文化に加え、ヨーロッパ、アフリカ、アジアとほぼすべての地域の文化が混淆しています。個性あふれる文化、豊富な資源などから日本にとって重要な地域の過去と現在を深く掘り下げます。

導入
- ラテンアメリカ地域研究入門
- 西米概史＊
- ブラジル史
- ラ米現代史概論＊

コア
- ラ米先住民の歴史と社会＊
- ブラジル政治概論
- ラ米経済概論＊
- アフロ・ブラジル文化論

演習
- ブラジル政治経済研究
- ラ米社会研究＊
- ポップカルチャー研究
- 在日ブラジル人教育・社会事情研究

Course-04

ロシア・ユーラシア研究コース

ロシア・ユーラシア地域について専門的かつ総合的に学ぶことのできる本コースでは、高度なロシア語力を基礎に、ロシアをはじめとする旧ソ連地域の歴史・政治・経済・社会・文化に精通し、日本と同地域の関係を自ら構築できる優れた実務家・専門家を育成します。

導入

ロシア・ユーラシア地域研究入門
ロシア・ユーラシア文化入門

コア

ロシア政治・外交
ロシア・ユーラシア経済概論
ロシア芸術
ロシア・ユーラシアの国際関係
ロシア史

演習

ロシア政治・外交
ロシア経済
ロシア文化・文学
ロシア語学

Course-05

言語研究コース

人間にのみ備わる言語能力の科学的研究を通して人間精神の本質に迫り、日本語・諸外国語に関する実証的研究を通じて言語の普遍性と多様性への理解を深めます。また、社会、歴史、文化、教育など人間のさまざまな営みにおける言語の機能・役割について考察します。

導入

言語学概論
日本語学概説
応用言語研究入門
Introduction to the Study of Language

コア

統辞論
日本語教授法
言語聴覚障害学概論
翻訳論
Sociolinguistics

演習

音声学・音韻論
日本語学
外国語教育学
言語聴覚障害学
Applied Linguistics

Course-06

アジア研究コース※

私たちにとって身近なアジアについて、知的関心と関わりを深めることができるように、主に東南アジア、南アジア、アジア太平洋地域を対象に、そこに住む人々の歴史、文化、社会、宗教について、地域研究とグローバル・スタディーズを連携させながら学び、方法論も身につけます。

導入

フィールド・ワーク論
東南アジア研究概説
南アジア研究概説
東アジア研究概説

コア

朝鮮半島の社会と文化
東南アジアのイスラームと社会
南アジアの社会と政治
アジアの人権問題

演習

アジア研究（A～F）
Globalization and Migration

Course-07

中東・アフリカ研究コース※

中東やアフリカは日本と深い結びつきがあるだけでなく、有力な宗教の一つであるイスラームはさまざまな影響を世界に与えています。現地密着型の地域研究とグローバル・スタディーズを連携させながら、両地域の歴史、文化、社会、宗教について学び、方法論も身につけます。

導入

グローバル化の人類学
グローバル化と宗教
中東研究概説
アフリカ研究概説

コア

アフリカ開発論
中東政治論
イスラームとジェンダー
LIFE AND CULTURE IN AFRICA
フランス語圏アフリカの社会と経済

演習

中東・アフリカ研究（A～F）
北アフリカ社会経済
アフロ・ブラジル研究
フランス語圏の歴史

Course-08

国際政治論研究コース※

今日の国際社会の政治は極めて複雑であり、安全保障と経済が密接に結びつく一方、国際関係と国内の政治経済も日常的に共振しています。日米中といった主要国の外交を含めた国際政治分野を深くかつ体系的に学ぶことで、国際政治の構図と問題の本質を見抜く力を培います。

導入

国際関係論入門
国際関係論概説
グローバル化と政治学
平和学

コア

国際政治学
グローバル・ガバナンス論
日本外交論
中国政治外交

演習

アメリカ政治外交
国連と紛争解決
外交政策
国際政治史

Course-09

市民社会・国際協力論研究コース※

貧困・格差、マイノリティへの社会的排除や、紛争、移民・難民問題、環境破壊など、地球規模でさまざまな問題が発生しています。これらに対し、現場の実情を理解し、市民の視点に立って取り組む考え方と実践を学び、グローバルな課題解決のために国際社会に働きかける力を養います。

導入

市民が関わる国際協力
市民社会・国際協力論概説
グローバル化と経済学
グローバル社会学

コア

国際政治経済論
グローバリゼーションと市民社会
グローバル化と発展途上国
特講ブラジル社会開発論

演習

国際協力論
国際教育開発論
開発経済学
グローバル市民社会論

［外国語学部］

英語学科

Department of English Studies

実践的な英語力と幅広い教養を身につけた、世界に羽ばたく人材を養成する

英語学科は創設以来半世紀以上にわたり、「学生たちに実践的な英語力と幅広い教養を身につけさせ、世界中どのような場所でも活躍できる人材として社会に送り出すこと」を教育上の使命としてきました。時代とともに世界は変わりましたが、その使命は今も変わりません。急速に進展するグローバル化の流れのなかで、卓越した英語力養成と幅広い教養教育という教育の２本の柱を、一層太く強固にしています。特に教養教育については、幅広いだけでなく、より深い専門性を持った人材育成を目指して９つの研究コースを用意しています。この学科で学んだ卒業生たちは多種多様な分野に進み、世界中で活躍しています。

［カリキュラムの特徴］

実践的な英語力の基盤となる英語圏の文化や習慣、政治、社会課題への理解を重視する

「第一主専攻」では英語４技能を集中的に鍛え上げる「必修科目」や、英語圏の文化や歴史を学ぶ「英語・英語圏研究科目」「英語圏基礎科目」といった授業を展開。専門的・学術的な英語文書を作成できるまでに英語力を高めながら、英語圏の政治・社会課題などにも理解を深め、地域や人々の持つ背景の違いが、コミュニケーションに与える影響なども考察します。
「第二主専攻」または「副専攻」では９つの「研究コース」のなかから一つを選び、専門的な学習と研究を行います。なお、多くの学生が短期留学制度や交換留学制度で海外経験を積みますが、単位認定制度を活用すれば、１年間留学しても４年間で卒業することが可能です。

［教員・研究分野］※は嘱託講師

飯島 真里子｜教授｜
グローバル・ヒストリー、移民史、日米植民地史、北米地域研究、環太平洋研究

石井 紀子｜教授｜
日米関係史、アメリカ女性史、アメリカ社会史、トランスナショナル・ヒストリー

和泉 伸一｜教授｜
第２言語習得研究、英語教育、フォーカス・オン・フォーム、CLIL

ジョン・ウィリアムズ｜教授｜
映画製作、ヨーロッパ映画

大塚 祐子｜教授｜
理論言語学、統語論、トンガ語、ポリネシア諸語、オーストロネシア諸語

小川 公代｜教授｜
英文学（近代イギリス小説）、映画論

ケネス・オキモト｜教授｜
アメリカン・メディア

小塩 和人｜教授｜
歴史学（環境・公共政策）

北原 真冬｜教授｜
音声学、音韻論、認知科学

坂本 光代｜教授｜
バイリンガル教育、多文化教育、社会文化理論、批判的応用言語学、言語政策

出口 真紀子｜教授｜
文化心理学

東郷 公徳｜教授｜
英文学（シェイクスピア）

リサ・フェアブラザー｜教授｜
異文化間インターアクション、社会言語学

ローレンス・ウィリアムズ｜准教授｜
英文学（18・19 世紀）、紀行文、ポストコロニアル理論

マーク・カウフマン｜准教授｜
文学創作、現代文学

ギャビン・フルカワ｜准教授｜
社会言語学、談話分析、言語イデオロギー

ロバート・マッキンタイヤー｜准教授｜
応用言語学

山中 美潮｜助教｜
アメリカ南部史、アメリカ黒人史、デジタル・ヒストリー

ディロン・ストルウィグ｜講師｜※
英文学（ロマン派）、イギリス文化史、哲学

オードリィ・モレル｜講師｜※
ヒューマン・アニマル・スタディ、クリティカル・シンキング、カリキュラム開発

デイヴィッド・ヨアング｜講師｜※
コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング（CLT）、インクルーシブ教育、障がいと言語学習

学科教員数：21 人（うち嘱託教員３人）
学生数（全学年）：788 人
（男 185 人／女 603 人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・中学校教諭１種（英語）
・高等学校教諭１種（英語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

英語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

英語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目		▸English Skills ▸English Composition			
		▸Cultures of the English-Speaking World			
選択科目	英語圏基礎科目		▸American Studies ▸英文学講読 ▸Topics in Linguistics		
	英語・英語圏研究科目	▸シェイクスピア入門 ▸Skills for study abroad			
			▸Intercultural Interaction ▸European Cinema ▸Cultural Psychology		
				▸Academic Writing ▸Japanese-English Translation ▸Discussion and Debate ▸Reading Skills ▸Business Communication ▸Presentation Skills	
研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▸北米研究コース			
		▸ヨーロッパ研究コース			
		▸ラテンアメリカ研究コース			
		▸ロシア・ユーラシア研究コース			
		▸言語研究コース			
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▸アジア研究コース			
		▸中東・アフリカ研究コース			
		▸国際政治論研究コース			
		▸市民社会・国際協力論研究コース			

※各コースの詳細はP.94～95を参照

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

［科目紹介］

English Skills
世界のニュースや日本の歴史、時事問題を取り上げ、ディベートなど多彩な授業形式を通して、「読む、聞く、書く、話す」という英語4技能を高めます。それぞれのSkills授業は、アカデミックでより深い内容を学ぶ3年次、4年次のクラスへの準備コースとして開講されています。

English Composition
専門的・学術的な英語文書を作成する力を身につけます。論理的かつ相手に正確に伝えるための編集や校正、引用などの手法についても学びます。

Cultures of the English-Speaking World
アメリカやイギリスを中心とした英語圏の文化や生活について、ニュースや文学作品、映画などを題材に課題を深めます。政治・社会問題にも触れます。

Intercultural Interaction
異なる背景を持つ人がコミュニケーションをとる際に生じる問題について、その内容と発生する原因、そして問題の解決方法を考察します。

Cultural Psychology
個人や集団における文化的背景の違いを解明していきます。日本人とアメリカ人は心理学的にどう違うのか？という疑問に対してアプローチします。

英語と社会
主に英語学科の卒業生を招き、これまでの人生の軌跡、現在の仕事と業界事情について話を聞き、自分自身の進路を考えるうえでの参考とします。

学生の声

文学から障害学まで幅広い分野を英語で学べるから、本当にやりたいことが見つかる

鈴木 静音　外国語学部 英語学科 3年（東京都 國學院高等学校出身）

上智の英語学科の魅力は、教員の研究分野が幅広いこと。歴史、心理、文学、メディアなど、自分の興味があることをすべて英語で学べます。私は入学当初英語教員を目指していましたが、「言語聴覚障害学」という学問に出会ったことでADHDや学習障害に興味を持ち、学びの方向を変えました。言語聴覚障害学一つをとっても、理論、研究、臨床など多角的にアプローチができることで理解の深まりを実感しています。学科生は「英語が好き」という共通点を持つものの、留学生や海外にルーツを持つ人、日本育ちなどさまざま。多様性に寛容な雰囲気があり、自分の意見を臆せず自由に発信できるのも魅力です。将来はまだ誤解の多い発達障害の分野において、療育や研究などに関わることで貢献したいと考えています。

Q 面白いと感じた科目は？

「言語聴覚障害学概論」です。言語に関する機能や障害の基礎知識が学べます。言語運用に伴う困難全般についての講義であるため、教員や言語研究者を志す人にこそ知ってほしいです。

Q 英語学科ならではの経験は？

外国語学部の学科がそれぞれの言語で行う語劇祭。LGBTQを題材にした作品で、ゲイの男の子役を演じました。役そのものはもちろん、英語で演じる難しさを感じつつも大きな達成感がありました。

［外国語学部］

ドイツ語学科

Department of German Studies

言語の運用能力を総合的に高める語学指導と多彩な地域研究から“ドイツ語圏の現在”に迫る

ドイツ語学科では、ネイティブの教員と日本人教員が連携し、集中的かつ効率的なドイツ語教育を実践しています。1年次よりドイツで出版されている教科書を使用し、コミュニケーションを重視した言語教育を展開。合わせてドイツ語圏の言語・思想・環境・政治・社会・メディアなど幅広いテーマを取り上げる授業を行い、ドイツ語圏の文化や価値観、思考方法などを理解・共有するための能力を習得します。ドイツ語や地域研究の専門家を養成するだけでなく、高いコミュニケーション能力と専門的知見・方法論を兼ね備え、国際社会で活躍できる人材を育成することを目標としています。

［カリキュラムの特徴］

ドイツ語圏での体験的な学びと学内での異文化交流を軸に、国際感覚が養われる環境を実現する

カリキュラムの大きな特徴となるのが、一般的な留学時期よりも早い2年次の秋学期にドイツ語圏で半年間勉強できる「在外履修制度」です。交換留学も利用すれば、言語と文化をより深く学べるでしょう。地域研究においては、ニュースや雑誌記事などを用いて、1年次からディスカッション形式の授業を実施。3～4年次には、歴史・政治・経済・社会・環境・文化・思想・音楽・美術など多彩な授業を用意しています。またドイツの大学との協定により、学科には多くのドイツ人留学生が在籍。ドイツ人とともに学び、議論し、文化や価値観の違いを体験することで、国内にいながら国際感覚を磨くことができます。

［教員・研究分野］

浅見 昇吾｜教授｜
ドイツの現代思想に基づく生命倫理の研究

河﨑 健｜教授｜
ドイツ政治学：ドイツの政党政治

高橋 亮介｜教授｜
理論言語学：ドイツ語を対象とした語彙意味的研究

佐藤 友紀子｜助教｜
ドイツ語圏メディア分析、メディア比較研究、ゲーム・スタディーズ、教育工学

ライノルト・オプヒュルス鹿島｜教授｜
ドイツ現代文化研究（ディスクール分析）：ヨーロッパ映画と大衆文化

木村 護郎クリストフ｜教授｜
ヨーロッパ言語社会論、ドイツ語圏社会研究

アンゲラ・リプスキ｜教授｜
ドイツ語教育：文法、誤答分析、言語学

柳田 ネンシ｜講師｜
言語ポートフォリオによる学習についての研究

学科教員数：8人
学生数（全学年）：259人
（男71人／女188人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・中学校教諭1種（ドイツ語）
・高等学校教諭1種（ドイツ語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

ドイツ語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

ドイツ語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目	専攻語科目	▸基礎ドイツ語Ⅰa·b	▸基礎ドイツ語Ⅱa·b	▸ドイツ語Ⅲ表現A·B ▸ドイツ語Ⅲ聴解A·B	▸専門読解準備コース言語A·B ▸専門読解準備コース思想·文化A·B ▸専門読解準備コース政治·社会A·B
必修科目	ドイツ語圏基礎科目	▸ドイツ語圏研究A ▸ドイツ語圏研究B ▸ドイツ語圏研究C ▸ドイツ語圏研究D			

研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▸北米研究コース
		▸ヨーロッパ研究コース
		▸ラテンアメリカ研究コース
		▸ロシア·ユーラシア研究コース
		▸言語研究コース
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▸アジア研究コース
		▸中東·アフリカ研究コース
		▸国際政治論研究コース
		▸市民社会·国際協力論研究コース

※各コースの詳細はP.94～95を参照

［科目紹介］

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

基礎ドイツ語Ⅰa

ドイツ語の基礎的な文法を学び、簡単な文書作成と文書読解ができる力、文法に基づいて適切なドイツ語論文と不適切なドイツ語論文を区別できる力を養います。

基礎ドイツ語Ⅰb

ドイツ語圏の日常生活で必要となる会話力や聴解力を身につけ、基礎レベルのコミュニケーション能力を培います。日本人とネイティブの教員が交代制で授業を行います。

基礎ドイツ語Ⅱa

中級文法の学習と文章読解を交互に行います。複合的·応用的な表現力の習得と、短文読解に適した既習の文法の再確認と強化を目指します。

ドイツ語圏研究A

ドイツ語研究に必要となる現代社会、政治、経済など基礎的な知識を身につけます。またドイツ事情を理解できる語学力を身につけ、社会事情への理解に至るまでを学んでいきます。

ドイツ語圏研究B

ドイツ語研究のための基本的な言語学知識を身につけることを目的とします。基本的構成·形式に則ったレポートを作成し、書き方の基本や口頭発表のスキルを身につけていきます。

ドイツ語圏研究C

ドイツ語研究のための文化·地理·社会·宗教上の基礎知識を概観するとともに、在外履修およびその他の留学を円滑に進めていくうえで求められている実践的な技術の習得を目指します。

学生の声

実践的なドイツ語を学べる環境を活かし、将来は通訳の道へ

横山 楓　外国語学部 ドイツ語学科 4年（新潟県立新潟南高等学校出身）

ドイツ語を学び始めたのは大学から。言語学に精通した先生から、文法の由来など基礎を丁寧に教えてもらえるので、学科の学びだけでも一定の語学力が身につきました。2年次の秋学期にドイツ語圏へ半年間留学できる「在外履修制度」は、ドイツ語学科ならではの魅力。私は交換留学制度と併用し、ドイツとポーランドの国境にあるヴィアドリナ欧州大学へ1年間留学し、現地でドイツ語はもちろん、ポーランド語やスペイン語も学びました。ネイティブとも対話できる語学力と、自分から積極的に行動を起こす力が身につきました。卒業後は通訳の仕事に携わりたいと考えていますが、上智には通訳や翻訳の授業が数多く用意され、その分野の第一線の先生から実務経験だけでなく、仕事の裏側を聞けることが、就職においても強みになると感じています。

Q 面白いと感じた科目は？

「演習（ドイツ思想）2」です。ドイツ語の小説などを翻訳してクラスメイト間で読み比べるのですが、同じ話なのに訳す人によって伝わる雰囲気が大きく異なり、翻訳の奥深さを感じました。

Q ドイツ語学科ならではの在外履修制度とは？

2年次の秋学期にドイツ語圏へ半年間留学できる制度。ドイツかオーストリアの協定校のなかから留学先を選べます。現地で取得した単位は、上智で卒業に必要な単位として認定されるのも魅力です。

［外国語学部］

フランス語学科

Department of French Studies

フランス語圏の研究を通して、現代社会の多元的諸相を理解する

フランスはEU域内で中心的な存在であり、世界の主要国の一つです。またフランス語が使用されるフランス語圏は、世界で二番目に多くの国や地域にまたがって広がっています。フランス語学科では、それらの多様な国や地域で活用できる高いフランス語能力に加え、フランスやフランス語圏を総合的に学ぶためのプログラムを用意。3～4年次の研究コースでは専門的な知識や研究のための方法論の獲得に加え、フランスはもちろん、世界に広がるフランス語圏地域への多角的で深い理解をうながします。このようにして、国際的な舞台で活躍するために欠くことのできない高い教養を養うことを目指しています。

［カリキュラムの特徴］

フランス語の運用能力に加え、社会・思想・文化への理解を通じ、総合的かつ複眼的な視座を習得する

1～2年次でフランス語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を徹底して学び、3年次の「表現演習」「聴解演習」「講読演習」などを通して4技能をさらに発展、4年次の「総合演習」を通してより実践的な運用能力を身につけます。また「フランス語圏基礎科目」では、フランスやフランス語圏の国や地域の政治、経済、社会、思想、歴史、文化などを広く、深く学びます。
さらに多様な研究コースのなかから一つを選び、思想、哲学、言語学、社会学、政治学、経済学、歴史学などを専門とする教員のもと、基礎から発展へ体系的に知識を積み重ね、専門研究を行い、卒業論文・卒業研究に結実させます。

［教員・研究分野］

岩﨑 えり奈｜教授｜
北アフリカ社会経済

エルヴェ・クーショ｜教授｜
フランスの哲学と現代美学

髙橋 暁生｜教授｜
フランス革命史、近代フランス社会史、フランス植民地主義

シモン・テュシェ｜教授｜
日仏対照言語学

原田 早苗｜教授｜
フランス語教育、応用言語学

小島 真智子｜准教授｜
現代フランス外交、国際安全保障

シモン・サルブラン｜准教授｜
憲法学思想、政治思想

牧 陽子｜准教授｜
家族社会学、社会政策論

ブリウー・モンフォール｜准教授｜
マクロ経済学、経済政策、国際貿易と金融

学科教員数：9人
学生数（全学年）：314人
（男72人／女242人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・中学校教諭1種（フランス語）
・高等学校教諭1種（フランス語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

フランス語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

フランス語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目	専攻語科目	▸基礎フランス語Ⅰ-1 ▸基礎フランス語Ⅰ-2	▸基礎フランス語Ⅱ-1 ▸基礎フランス語Ⅱ-2	▸表現演習Ⅲ ▸聴解演習Ⅲ ▸講読演習Ⅲ	▸総合演習Ⅳ ▸特別演習S
必修科目	フランス語圏基礎科目	▸フランス語圏研究A（歴史と文化） ▸フランス語圏研究B（政治と宗教） ▸フランス語圏研究C（社会と経済） ▸フランス語圏研究D（総論）			

研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▸北米研究コース
		▸ヨーロッパ研究コース
		▸ラテンアメリカ研究コース
		▸ロシア・ユーラシア研究コース
		▸言語研究コース
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▸アジア研究コース
		▸中東・アフリカ研究コース
		▸国際政治論研究コース
		▸市民社会・国際協力論研究コース

※各コースの詳細はP.94～95を参照

［科目紹介］

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

基礎フランス語Ⅰ

文法の土台を固めながら、フランス語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に伸ばします。週6コマの高い密度で、日本人とネイティブの教員がチームを組んで授業を行います。

基礎フランス語Ⅱ

基礎フランス語Ⅰと同様に週6コマの授業を行います。文法と会話表現を高めながら、社会学、言語学、歴史学、政治学、経済学など専門分野にも触れ、3～4年次に研究に取り組むための知識と高度な読解力を身につけます。

総合フランス語科目

「表現演習」「聴解演習」「講読演習」など、4技能を集中的に強化することを目的とした科目群からなります。総合的なフランス語運用能力の強化を図る「総合演習」「特別演習」といった科目も用意します。

フランス語圏研究A（歴史と文化）

中世から現代までのフランスの歴史、フランス・フランス語圏の地理を学び、専門的な研究を進めるうえで必要な基礎知識を養います。合わせて、プレゼンテーションスキルも身につけます。

フランス語圏研究B（政治と宗教）

複数の宗教の共存を目指してフランスに生まれた共和主義における「共存」の理想と実行について、特にそのカギとされる「ライシテ」の概念に注目しながら、特徴と歴史的背景を通して考察します。

フランス語圏研究C（社会と経済）

フランスとフランス語圏の地域の社会と経済を理解するために必要な多角的なアプローチを学びます。取り上げるテーマは、フランスの経済と社会、フランス語圏アフリカ・中東の社会と近代史などです。

学生の声

アクティブラーニングで高まった語学力とフランス社会への関心

鬼嶋 優希　外国語学部 フランス語学科 4年（千葉県立千葉高等学校出身）

国際機関で子どもの教育に関わりたい思いから、英語と並ぶ国際語であるフランス語を習得するために上智へ。上智のフランス語学科の魅力は、議論やグループワークといった主体性を求める授業が多いこと。高校までの受動的な学びに疑問を持っていた自分にとって、フランスでの教育にも通じるアクティブラーニングは刺激的で、自分の思考を深め、それを外国語で表現することに難しさを感じる一方で楽しさも感じています。学科では語学以外に、政治や経済の動向などフランス語圏で起こる事象についても幅広く学ぶことができます。現在は貧困世帯への支援活動や教育格差解消に挑む団体設立を通して、「脱成長」「社会連帯経済」といったフランス社会独自の思想に関心を持ち、現地で理解を深めるべく大学院への進学を目指しています。

Q 面白いと感じた科目は？

「フランス近現代史研究」です。常に人種や宗教の問題に直面しているフランスを題材に、現在進行形の問いを切り口に他者や異文化との共生の方法について考察しました。

Q フランス語学科ならではの文化は？

学科にはフランス語サークルといって、チーズパーティーやお菓子作りなどフランス文化に触れられる独自サークルがあります。先輩後輩関係なく盛り上がり、縦のつながりの強さを感じます。

［外国語学部］

イスパニア語学科

Department of Hispanic Studies

広大にして多彩なイスパニア語圏を「ことばと地域研究」の両面から捉える

イスパニア語を公用語とする地域は、ヨーロッパ（スペイン）、南北アメリカ大陸（メキシコほか16カ国）、カリブ海地域（キューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコ米自治領）、そしてアフリカ（赤道ギニア）というように世界中に広がっています。さらに国際連合の公用語の一つに数えられるほか、アメリカ合衆国においても、ヒスパニック人口が急増し、イスパニア語とその話者の存在感は大きくなっています。イスパニア語学科では、そうしたイスパニア語およびイスパニア語圏についての専門的知見と高い異文化コミュニケーション能力を兼ね備え、世界を複眼的かつ相対的に捉えられる人物を育成しています。

［カリキュラムの特徴］

ゼロからの学びを前提とした段階的なカリキュラム構成で、着実に言語運用能力を習得する

「第一主専攻」の「専攻語科目」で、イスパニア語の４技能（読む、聞く、書く、話す）を段階的に積み重ねます。上級生は読解、口頭表現、作文など技能別に開講されている科目から、一人ひとりが伸ばしたい力を選択して学ぶことも可能です。合わせて「イスパニア語圏基礎科目」では、イスパニア語圏を知るうえで重要となるスペインの歴史など、イスパニア語圏に関する基礎知識を習得します。「第二主専攻」では学生一人ひとりが関心のある「研究コース」を選択し、開設科目群を履修することで、ある地域や学問分野についての系統的な学習と研究を行います。最終学年ではこれらの成果を卒業論文にまとめます。

［教員・研究分野］

長谷川 ニナ｜教授｜
日本とラテンアメリカにおける文化的価値観の比較研究

幡谷 則子｜教授｜
ラテンアメリカの現代社会ー都市と農村の民衆組織と社会運動ー

松原 典子｜教授｜
スペイン近世美術史、特に16・17世紀の絵画、彫刻、美術理論

西村 君代｜教授｜
スペイン語形態論、スペイン語文法記述

谷 洋之｜教授｜
ラテンアメリカ経済論、メキシコ地域研究

内村 俊太｜教授｜
スペイン近世史、16世紀における歴史編纂

アインゲル・アロツ｜准教授｜
社会言語学、言語学史

アントニオ・ドニャス｜准教授｜
スペイン中世文学、文献学、思想史

ナンシー・アラス｜助教｜
ラテンアメリカ法、比較法学

学科教員数：９人
学生数（全学年）：307人
（男111人／女196人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・高等学校教諭１種（イスパニア語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

イスパニア語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

イスパニア語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目	専攻語科目	▶基礎イスパニア語Ⅰ	▶基礎イスパニア語Ⅱ	▶総合イスパニア語（口頭表現、作文、読解、聴解）	
必修科目	イスパニア語圏基礎科目	▶イスパニア語圏研究入門 ▶西米概史	▶西概史 ▶西・西米文学史		

研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▶北米研究コース
		▶ヨーロッパ研究コース
		▶ラテンアメリカ研究コース
		▶ロシア・ユーラシア研究コース
		▶言語研究コース
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▶アジア研究コース
		▶中東・アフリカ研究コース
		▶国際政治論研究コース
		▶市民社会・国際協力論研究コース

※各コースの詳細はP.94～95を参照

［科目紹介］

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

基礎イスパニア語Ⅰ・Ⅱ

1・2年次の必修科目。イスパニア語の基本的な文法と語彙を身につけて、4技能（読む、聞く、書く、話す）の基礎を習得するとともに、イスパニア語の学習方法についても学びます。

西・西米文学史

2年次の必修科目。イスパニア語圏文学の歴史を概観するとともに、作品の断片を鑑賞してその豊かな世界を知り、作品の背景となった文化や社会についても考えます。ネイティブ教員によってイスパニア語で行われる授業です。

総合イスパニア語A

新聞記事などを教材に文化や時事問題を取り上げながら、より高度な文法構造を学習し、文章作成能力を高めます。その後、実際に作文を行い、ネイティブ教員からの評価を受けます。

イスパニア語圏研究入門

「イスパニア語圏基礎科目」のうち最も基礎的な部分を担う授業です。研究活動を行ううえで必要となる知識、研究方法、論文・レポート執筆スキルなどを身につけ、その後の履修計画や研究の基盤とします。

西概史

イスパニア語圏を理解するために重要な、古代から現在にかけてのスペインの歴史を概観します。現代のスペインをより深く理解するだけでなく、イスパニア語圏へ留学予定の学生にとっては前提知識にもなります。

西米概史

イスパニア語圏・ラテンアメリカの研究を行うために重要な、イスパノアメリカ史の基礎を学びます。

学生の声

イスパニア語で好きなことを探究。興味が広がり、さらに語学を究めたくなる

戸村 柚穂　外国語学部 イスパニア語学科 4年（千葉県立薬園台高等学校出身）

イスパニア語はスペインにとどまらず、中南米やアフリカなど多くの国と地域で話される言語。英語以外にも、多くの人とコミュニケーションが取れる言語を習得したいと考え、選択しました。1～2年次には週6コマの語学の授業があり、最初は追いつくのに苦労しましたが、予復習も含めほぼ毎日言語に触れることで、4技能がぐんぐん鍛えられていくのを実感。言語習得が最終目的ではなく、歴史や文学の必修科目があるほか、培った語学力を武器に研究コース別の専門的な学びにつなげていけることも魅力です。今は「スペイン史」のゼミに所属し、スペイン文化について研究しています。身につけた語学力を活かし、資料を原文で読むことが現地の人々の視点に近づくきっかけになることに面白さを感じています。

Q 面白いと感じた科目は？

「西・西米文学史」です。イスパニア語の文章は目的語の使い方が独特で、日本語ではあえて言わない言葉が含まれるケースも。初めて聞いた詩は今も記憶に残っています。

Q イスパニア語学科の雰囲気は？

イスパニア語圏出身の先生が多く、学科全体として明るくコミュニケーションが活発な印象です。皆が積極的に発言しやすい雰囲気があります。

［外国語学部］

ロシア語学科

Department of Russian Studies

日本とロシアの“架け橋”となるにふさわしい幅広い知識と確かな語学力を習得する

日本でも数少ないロシア語およびロシア・ユーラシア地域研究を専門とする学科です。ロシア語の運用能力習得を目指すとともに、ロシアをはじめとする旧ソ連邦（バルト諸国、ベラルーシ、ウクライナ、中央アジア諸国、コーカサス諸国など）、中東欧諸国について総合的に学ぶことができます。ソ連邦崩壊後の混乱を経て、新しい世界秩序を構築していくなかで、ロシア・ユーラシアはますます重要な地域となっています。この地域の現実に精通し、人々の文化や精神性を理解し、特に、日本とロシア、世界との関係を自ら積極的に構築できる人材を育成し、優れた実務家、ロシア・ユーラシア地域研究の専門家を輩出することを目指しています。

［カリキュラムの特徴］

2年次までに日常会話レベル、卒業時までにグローバルな場面で駆使できるロシア語運用能力を獲得する

1～2年次の2年間で、ロシア語の基礎を徹底して学びます。「基礎ロシア語」科目は週6コマ600分の授業からなり、1年次は総合・会話・文法、2年次はドリル・会話・講読といった内容で構成されており、会話の授業はすべてロシア語を母語とするネイティブの教員が担当します。3～4年次には中～上級の「ロシア語専門科目」を学び、高度なコミュニケーション能力を身につけます。また1年次の「ロシア語圏基礎科目」など、ロシア・ユーラシアの政治、経済、文化、芸術に加え、ロシア的発想の理解を目的とした学びを展開。9つの研究コースから一つを選んで行う専門研究の学びへとつなげていきます。

［教員・研究分野］

秋山 真一｜教授｜
ロシア語の統語論・コロケーション・教育用の発音表記などを研究

安達 祐子｜教授｜
現代ロシア企業の発展過程、ロシアにおける政治とビジネスの関係を分析

村田 真一｜教授｜
ロシア演劇とロシア文化に関して、国内外の多数機関と共同で研究

湯浅 剛｜教授｜
ポスト・ソ連空間の安全保障、政治変動、地域機構について研究

阿出川 修嘉｜准教授｜
ロシア語アスペクト論・言語学および隣接領域としての文学テキスト研究

佐山 豪太｜准教授｜
ロシア語教育、語彙学習法、コーパス言語学を研究

ヴァルヴァラ・ムヒナ｜准教授｜
ロシアの移民受け入れ問題とロシア語圏から日本への移住者の研究

スヴェトラーナ・ラティシェヴァ｜准教授｜
翻訳、日露文化比較研究が専門。作文による研究・教育活動を実践

学科教員数：8人
学生数（全学年）：263人
（男104人／女159人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・高等学校教諭1種（ロシア語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

ロシア語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

ロシア語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目	専攻語科目	▸基礎ロシア語Ⅰ-1・2	▸基礎ロシア語Ⅱ-1・2		
必修科目	ロシア語圏基礎科目	▸ロシア研究方法論 ▸ロシア・ユーラシア文化入門1 ▸ロシア・ユーラシア地域研究入門1			
選択科目				専攻語科目	▸ロシア語表現法　▸ロシア語アクティヴ・コミュニケーション ▸現代ロシア語研究　▸ロシア語翻訳研究　▸ロシア語文献研究 ▸ロシア語文法研究　▸ロシア語原書講読　▸ロシア語学　他
研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▸北米研究コース			
		▸ヨーロッパ研究コース			
		▸ラテンアメリカ研究コース			
		▸ロシア・ユーラシア研究コース			
		▸言語研究コース			
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▸アジア研究コース			
		▸中東・アフリカ研究コース			
		▸国際政治論研究コース			
		▸市民社会・国際協力論研究コース			

※各コースの詳細はP.94～95を参照

［科目紹介］

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

基礎ロシア語Ⅰ・Ⅱ

ロシア語およびロシア・ユーラシア地域の研究に必要となる基礎的な語学力の習得を目標とします。1～2年次ともに、1週間に6コマの高い密度で授業を行います。

ロシア研究方法論

パソコンでのロシア語入力スキルからロシア地域の情報収集の技術、論文・レポートの作成法まで、ロシア地域を研究するために必要な情報リテラシーを学んでいきます。

ロシア・スラブ対照言語学

中東欧の諸言語のうち、ロシア語以外のスラブ諸語（ウクライナ語・ベラルーシ語・ポーランド語・ブルガリア語など）の文字・音声・文法、およびその背景にある言語文化を知ることにより、現代ロシア語の言語学的位置づけを相対的に理解します。

ロシア語表現法

ロシア語でのプレゼンテーションを通じて、スピーキング・ライティング・リスニングのスキルを向上させます。また、質疑応答に必要な表現も学びます。

ロシア語翻訳研究

オリジナル言語（日本語の原文）をターゲット言語（ロシア語）に翻訳する力を培います。さまざまなジャンルの教材を活用し、ロシア語圏の歴史・文化への理解も深めます。

ロシア・ユーラシア地域研究入門

ロシアの歴史と現在を中心に、入門的なロシア・ユーラシア情勢、国家と国際関係、日ロ関係史に関する講義を行います。今後の学習・研究につながる基礎を身につけます。

学生の声

アットホームな環境で
実践的なロシア語を身につける

高橋 里奈　外国語学部 ロシア語学科 3年（東京都 学習院女子高等科出身）

ロシア人である父とは日本で生活してきたため、高校までのロシア語運用はリスニングが中心。幼い頃から身近にあったロシア語とロシア語圏の地域をより深く理解したいという思いから上智に進学しました。会話や文法、講読を中心とした週6コマのロシア語の授業で、1年次から徹底的に語学力を高められることが上智の魅力。学科には私のようにロシアにルーツを持つ学生もいますが、入学までロシア語に触れたことのない学生が大半。アットホームで先生との距離が近く、気軽にアドバイスを受けることができることもあり、ゼロから始めても4年間で実用レベルのロシア語の修得が叶います。夏休みに参加したカザフスタンでの短期留学プログラムで、現地の友人とロシア語で交流ができたことは忘れられない思い出です。

Q 面白いと感じた科目は？

「ロシア・ユーラシア経済概論」です。各時代の映像やグラフとともに教わることで、ソビエト連邦からロシア連邦になる過程で変化した経済的背景について理解を深めることができました。

Q 上智で言語を学ぶ魅力は？

選択できる語学科目の種類の多さが魅力。私はロシア語のほかに、ペルシア語も履修しています。自分の専門の周辺諸国の言語について学ぶことが、地域研究に大いに役立ちます。

［外国語学部］

ポルトガル語学科

Department of Luso-Brazilian Studies

フロンティア・スピリッツにも似た、語学・地域研究の叡智を学ぶ

異なる文化の人々とのコミュニケーションには、言語だけでなく、背景にある社会や文化などに関する基礎知識が重要です。そのためポルトガル語学科ではポルトガルやブラジルだけでなく、ポルトガル語圏地域を総合的に学びますが、そこで培った能力は、ほかの言語圏へアプローチする際にも役立つものとなります。学生に求めるものは「未知なるもの」に挑戦する精神です。大きな変化を遂げる現在の国際社会へ飛び出す姿勢は、500年前に大航海時代を切り拓いたポルトガル人航海士の精神に通じるもの。ポルトガル語学科ではビジネス界だけでなく、NGOやNPOなど幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

［カリキュラムの特徴］

社会・文化・歴史などへの理解を学習のモチベーションとして語学と地域研究を相乗的に学ぶ

文法、会話、作文、講読などを中心に週６コマの授業を行う１～２年次の「基礎ポルトガル語」でポルトガル語の基礎を徹底して学び、合わせて「ポルトガル語圏基礎科目」の授業でポルトガル、ブラジル、アフリカやアジアの複数の国・地域に広がるポルトガル語圏各地域の歴史も概観します。
３～４年次にはポルトガル語による高度なコミュニケーションやプレゼンテーションを見据えた運用能力を習得する実践的科目群と並行して、９つの研究コースから一つを選択し、専門性の高い科目群を中心に学びます。４年次には「演習」で学びの集大成として、卒業論文や卒業研究に取り組みます。

［教員・研究分野］※は嘱託講師

市之瀬 敦｜教授｜
ポルトガル語語彙系クレオール語、
ポルトガル語圏近現代史

子安 昭子｜教授｜
国際関係論、政治と外交を中心に
ブラジル現代社会を研究

田村 梨花｜教授｜
ブラジル地域研究が専門。
ブラジル貧困地域のコミュニティ教育を研究

マウロ・ネーヴェス｜教授｜
ラテンアメリカ、アジア、ヨーロッパの
ポップカルチャーに見る社会情勢について研究

矢澤 達宏｜教授｜
アフリカの政治・歴史、ブラジルの黒人および
人種間関係などについて研究

ルシーラ・エツコ・ギボ｜准教授｜
ポルトガル語学、ブラジルの沖縄語、
ポルトガル語と日本語と沖縄語の接触について研究

ニウタ・ジアス｜准教授｜
教育学が専門、在日ブラジル人の子どもの
教育について研究

宮入 亮｜助教｜
北東部を中心としたブラジルの文学および文化を研究

タミス・ラリッサ・シウヴェイラ｜講師｜※
外国語としてのポルトガル語教育について研究

学科教員数：９人（うち嘱託教員１人）
学生数（全学年）：257人
（男102人／女155人）
取得できる学位：学士（外国研究）

取得教員免許状と教科
・高等学校教諭１種（ポルトガル語）
このほかに学芸員課程を設置しています。

ポルトガル語学科
アドミッション・ポリシー
（入学者受け入れの方針）

ポルトガル語学科
Webサイト

［4年間のカリキュラム］

		1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通科目（P.26参照）					
必修科目	専攻語科目	▸基礎ポルトガル語Ⅰ（文法、会話、読解・作文）	▸基礎ポルトガル語Ⅱ（文法、会話、文章作法、主題研究、講読文法、速読）	▸総合ポルトガル語（口頭表現、作文、読解）	
必修科目	ポルトガル語圏基礎科目	▸ポルトガル語圏研究入門 ▸ポルトガル史 ▸ブラジル史	▸ポルトガル語圏アフリカ史 ▸アジアとポルトガル語圏		

研究コース科目※	主に外国語学部の開講科目によって構成	▸北米研究コース
		▸ヨーロッパ研究コース
		▸ラテンアメリカ研究コース
		▸ロシア・ユーラシア研究コース
		▸言語研究コース
	主に総合グローバル学部の開講科目によって構成	▸アジア研究コース
		▸中東・アフリカ研究コース
		▸国際政治論研究コース
		▸市民社会・国際協力論研究コース

※各コースの詳細はP.94～95を参照

［科目紹介］

科目の詳細については上智大学公式Webサイトのシラバス検索をご活用ください。

基礎ポルトガル語Ⅰ
文法、会話、読解・作文に分けて、ポルトガル語の基礎を学びます。ネイティブスピーカーとのコミュニケーションに必要な単語や表現、基礎構文を学びながら「聴く、読む、話す、書く」力を養います。

基礎ポルトガル語Ⅱ
文法、会話、文章作法、主題研究、講読文法、速読に分けて、中級レベルのポルトガル語の運用能力を身につけます。合わせてポルトガル語圏の歴史や文化への理解を深めます。

総合ポルトガル語
1～2年次に身につけた基礎力を、実践的な応用力へと発展させます。自らの考えを発表し、難解な文献を読み解くなど、多角的に語学の総合力を高め、専門研究へと移行する力を養います。

ポルトガル語圏研究入門
ポルトガル語圏諸国を対象として、地理・歴史・人・社会・グローバル・移民といった視点からのアプローチをもとに、地域研究の研究視点、方法、資料収集、論文作成に関する基礎知識を学びます。

ポルトガル史
建国からカーネーション革命（1974年4月革命）後までのポルトガル史を概観します。ポルトガル史と隣国スペインをはじめとするヨーロッパ史の双方からの思考ができる知識を習得します。

ブラジル史
植民地時代から現代に至るまでのブラジル史を概観し、あくまで現代のブラジルを理解するために必要な知識・視点を培うことを目的として、500年以上にわたる歴史の流れを学びます。

学生の声

言語を通して文化を学ぶ。学科での学びが、多言語に興味を持つきっかけに

箱崎 拳汰　外国語学部 ポルトガル語学科 4年（茨城県 土浦日本大学高等学校出身）

在日ブラジル人の友人から日本教育の課題について聞いたことをきっかけに、ポルトガル語圏に興味を持ち、ポルトガル語を専攻できる上智を受験しました。ポルトガル語学科では1年次からネイティブの先生による必修科目があり、入学直後からポルトガル語漬けの日々を送れます。言語を学びつつ、もともと興味のあった教育分野の授業も履修。さらに、趣味から派生して受講したポップカルチャーの授業をきっかけに、従来の学問に対する固定概念が崩れ、自由な発想で学びを深めることができています。言語を学ぶことで、いろいろな国の文化・伝統を理解できることから、ポルトガル語を第一歩に、フィリピンで使用されているタガログ語や、ほかのラテン系の言語も学びたいと思うようになりました。

Q 面白いと感じた科目は？

「ポルトガル語コミュニケーションスキル」です。出されたテーマに沿って、クラスメイト間で会話を展開。少人数のため、自分が話さないと会話が途絶えるということもあり着実に語学力が上がります。

Q ゼミでは何を学んでいる？

世界中のポップカルチャーを時代やジャンルを越えて研究しています。映画、音楽、テレビなどについて、ほかのゼミ生や先生と議論を重ねながら分析。正解のない問いに挑んでいます。